



旅の道しるべ

①東日本大震災・原子力災害伝承館



福島県は、東日本大震災及び原子力災害という未曾有の複合災害の記録と教訓を後世に伝えとともに、復興に向けて力強く進む福島県の姿やこれまで国内外からの支援に対する感謝の思いを発信する「東日本大震災・原子力災害伝承館」を整備しました。伝承館では、震災関連資料の「収集・保存」や複合災害に関する「調査・研究」、それらを活かした「展示」、複合災害の経験・教訓を伝えるための「研修」の4つの事業に取り組むとともに、福島イノベーション・コースト構想における情報発信拠点として地域交流の促進に取り組んでいます。

②大熊町フィールドワーク



▼大熊町役場本庁舎

▲12年ぶりに町に戻った教育施設（学び舎ゆめの森）



大熊町は、福島県浜通りに位置し、福島第一原発は大熊町と双葉町の町境をまたいで立地していました。2022年6月30日、東京電力福島第一原発事故で被害を受けた大熊町の一部で避難指示が解除されましたが、対象区域は町の面積の1割程度です。一方で、2023年度に認定こども園と義務教育学校、預かり保育、学童保育を一体にした「学び舎ゆめの森」が完成し、復興への歩みを進めています。

④道の駅 なみえ



2020年8月に始動した道の駅「なみえ」。復興の途中にある浪江町にとって道の駅は、人々のランドマークとして、町の復興のシンボルとしての使命を持って誕生しました。買い物ができ、食事ができ、ちょっと休憩もできる、町の人々の暮らしを支える場所、そして、町の人たちの新たなチャレンジを支える場所。新たなチャレンジは町の新しい魅力を産み出し、その新しい魅力が集まって、浪江町は新しい町へと彩りを変えていきます。



③東京電力廃炉資料館

富岡町にある廃炉資料館は原発事故の記憶と記録・反省と教訓、廃炉現場の最新状況などを発信するために、東京電力が運営する資料館です。長期にわたる、膨大な廃炉事業の全容が見える化し、その進捗を発信することで原子力事故を悲惨さを後世に伝えていきます。



避難指示区域の設定について

